

年	児童の実態	授業改善の視点とその方策	2月検証
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算の力は、おおむねついている。指やブロックなどを必要とする児童がいるので、習熟が必要である。</li> <li>・文章問題では、内容を理解するのに時間がかかり、苦手とする児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に計算練習を重ねていく。計算方法をしっかりと身に付けられるよう授業内容を工夫する。</li> <li>・たし算、ひき算となる言葉に着目させ、文章を理解したうえで数多くの問題に取り組みせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟させるためにマス計算を取り入れ、20までの計算は、ほとんどの児童が速く正確にできるようになった。</li> <li>・文章問題では、キーワードに印をつけられる。時々立式を間違える児童はいるが、ほとんどの児童は正確に解けるようになった。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算は、おおむねよくできているが、様々なパターンを混同してしまい、ミスにつながることもある。</li> <li>・思考力をともなう応用的な問題が苦手である。時刻と時間では、戸惑う児童が多かった。また、単位の換算なども難しいようである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なパターンの計算練習を朝学習や、授業、家庭学習で繰り返し習熟させ、定着を図る。</li> <li>・文章題では、キーワードを探したり、絵や図をかかせたりして、文章問題の解き方を練習していく。また、児童の理解が足りなかったところを繰り返し復習しながら、定着させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し習熟したことにより計算力が伸びている。文章題の手立てとして、図をかく指導を続け力をつけているが、かけ算も出てきたことで、演算決定に迷う児童もおり、継続した指導が必要である。</li> <li>・時刻と時間は生活経験も重なって、少しずつ理解してきた。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算力に差があり、加減計算に時間がかかり、九九の暗唱も不十分な児童が見受けられる。</li> <li>・文章問題の題意をとらえることが苦手で、文章問題や応用問題に対し意欲をもたせることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し学習や個別指導を行い、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・文章問題では、問題を音読させ、図や絵をかかせたりアンダーラインを引かせたりするなど、手立ての指導を行うとともに、自分の考えを説明する場面を設け、数学的思考力を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算に対する意欲が向上し、全体的に正確に速く計算できる児童が多くなった。</li> <li>・文章問題や応用問題に対しては、苦手意識をもっている児童が見受けられる。題意を正確にとらえ、演算決定ができるように指導していく。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除法の計算はおおむね理解しているが、文章題や応用力を必要とする問題になると苦手とする児童が多い。</li> <li>・各図形の構成要素を少しずつ理解してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して問われている事柄は何かを明確にするために、音読を多く取り入れ、題意をしっかりとつかむ。また、発表機会を多く持つことで、様々な考え方があつたのに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントなどを利用し問題を多く解くこと、より具体的な課題を与えることで、やや抵抗感は少なくなってきた。様々な考えがあつたことに気づくことができた。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な学習内容はおおむね理解できる。応用問題を考える際に、題意が十分に捉えられず、苦手意識をもつ児童がいる。</li> <li>・自分の考え方について、言葉や文章で説明することが苦手な傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応用問題を解く際は、問われている事柄を確認する。また、個人で考える際に適宜個別指導を行い、題意をとらえられるようにして、苦手意識をなくしていく。</li> <li>・児童が自分の考え方を説明する機会を多く設け、数学的思考力を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応用問題では、文章をよく読み、問われていることを読み取るよう繰り返し指導した。また、個別指導を適宜行うことで以前より児童の苦手意識をなくすことができた。</li> <li>・各単元で自分の考えをまとめ、発表させることで思考が整理できるようにした。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識や表現処理は比較的定着している。文章題や応用問題に苦手意識をもつ児童がおり、数学的な思考が十分ではない児童も若干名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章から適切に計算式を選ぶことができるよう、朝学習などを利用して練習を重ねていく。さらに単元の終わりに発展問題に取り組みせ応用力をつけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の中のキーワードをきちんと捉え、かけわり図などを利用して問題に取り組んだことで、計算に対する理解が進んだ。数学的な思考も少しずつできるようになってきている。</li> </ul>

--	--	--	--